

帰化植物ノート(2)

浅井 康 宏*

Miscellaneous Notes on the Naturalized Flora of Japan (2) On Some Alien Ferns escaped from Cultivation in the Vicinity of Tokyo

Yasuhiro Asai*

(With 3 Text-figures)

Adiantum capillus-veneris Linnaeus is widely distributed in the tropics and subtropics of both hemispheres, but this lovely maiden-hair fern rarely grows wild in the southern parts of Japan. *Selaginella uncinata* (Desv.) Spring is a native of southern China.

Both ferns were introduced to Japan for ornamental purposes in greenhouses approximately 100 years ago, and perhaps more. At the present time, the former species is established on shady or sunny damp rocky cliffs of Tokyo and the vicinity. The latter species has become a semi-naturalized plant in shady sites under the evergreen forests of Tokyo Pref..

2. 東京附近に逸出帰化状態を示すシダ植物について

最近、我国へのいわゆる外来植物の侵入、帰化は、いちじるしいものがあり、従来、筆者の調査した範囲内でも、極めて多数にのぼっている³⁾。しかしシダ植物となると、室内装飾用などの目的で外来種の輸入が、現在までかなりの数に達しているにもかかわらず、野外に帰化状態を示すものは、極めて稀である。しかしながら筆者の知るかぎり、東京附近において少くとも、次の2種の逸出帰化を認めるものであって、以下、この点について述べておきたい。

すなわち1つは、従来、我国の暖地に既にそれと認められているハウライシダ *Adiantum capillus-veneris* LINNAEUS, Sp. Pl. 1096 (1753) であって、関東以南では各地に逸出、生育している⁶⁾。そして本種の逸出源としては、主に温室内の装飾、下草などに栽植されていたものに由来すると思われる。

たとえば現在、神奈川県江の島の各所陰湿崖地に群生するもの¹⁾²⁾は、明らかに1885年頃、同島の3000余坪にも及ぶ頂上台地に広大な洋式庭園(現在の藤沢市江の島植物園)および、当時としては珍しい200坪もの温室を設営したイギリスの貿易商、故サムエル・コッキング氏の国外からの輸入、栽培品に由来¹¹⁾するものである。また、同島の鎌倉市内の路傍の側溝壁面に生育するものも、同様に栽培起源のものと考えられる。

ところで筆者は、東京都内における本種の顕著な逸出生育地の1例として、千代田区永田町の国会議事堂附近の路傍崖地を挙げておきたい。同地は写真(Fig. 1)に見られるように、本来の生育環境とは異り、ほとんど終日に亘って、充分陽光を受ける石垣で、その間隙にかなり広範囲に点々と生育し、その中には相当の大株となっているものも見受けられる。筆者は長年に亘り、該地の観察を続けているが、年々その生育地域も拡まり、発育も旺盛で、完全な逸出帰化状態を示している。恐らく、これも嘗つて附近に栽植されたものに由来すると思われる。

* 東京歯科大学歯科保存学教室 Department of Conservative Dentistry, Tokyo Dental College.
原稿受理 1971年3月12日、業績第221号



Fig. 1. *Adiantum capillus-veneris* L. established in the sunny stone walls of Nagata-chô near the Diet Building, Chiyoda-ku, Tokyo (May 10, 1970).



Fig. 2. *Selaginella uncinata* (Desv.) Spring escaped from cultivation, growing wild along the roadside, Setagaya-ku, Tokyo.

なお、本種はハマビシの場合と同様に⁵⁾、我国に在来品も認められているが¹⁰⁾、しかし上述のものは、いずれも外来品に基づくものである。

他の1つは、南支原産のコンテリクラマゴケ *Selaginella uncinata* (Desv.) SPRING—*Lycopodium uncinatum* DESVAUX で、これも温室内の下草などに、その英名 Blue Selaginella が示すような、美しい青藍色を呈するかなり大形の葉を目的として栽植されている。そして暖地では野外で生育し、東京附近においても微光を受ける樹下で、しかも冬期ある程度の被覆物がある場所では、逸出帰化状態のものも稀に認められる。現在、東京都内においても、各所にこのような状態のものの点在が観察され得る (Fig. 2, 3 参照)。

この他、東京近傍では神奈川県三浦半島の逗子・神武寺境内に、古くから庭園内の樹陰地に野外で美事に生育し、また同県の丹沢山麓 (蓑毛) でも同様な状態が知られ⁹⁾、筆者も度々兩地を訪れ、確認している。

しかしながら本種は、ホウライシダの場合と



Fig. 3. *Selaginella uncinata* (Desv.) Spring escaped to Setagaya, Tokyo.

違って地上性で、しかも美麗でもあるため、筆者も既に一般の帰化植物を例にあげて述べたごとく⁴⁾、今後、各地へたとえ逸出したとしても、人為的にすぐ採集されつくされ、恐らく充分な帰化状態となり得ないであろう。

因みに本属 *Selaginella* の植物は、ヨーロッパ各地においても、輸入品が帰化状態を呈することが多い。例えば、北アメリカ原産の *S. apoda* (LINN.) FERNALD (1915)—*S. apus* Spring がドイツに、また南アフリカ地方原産の *S. kraussiana* (G. KUNZE) A. BRAUN (1860)—*S. azorica* BAKER の南および西ヨーロッパへの帰化が報告されている。

一方、故檜山庫三氏は長年に亘り、東京近郊のフロラについて極めて綿密な調査を行ない、些細な逸出種に至るまで詳細な記録⁷⁾を残されている。しかしながら、上述の2種に関しては全く触れていない。

従って、以上の事柄は、大方の識者にとって既知の事実であり、蛇足の域を出ないかも知れないが、我国の帰化植物相調査の基礎資料の一部としてまとめておくこととした。

引用文献

- 1) 浅井康宏 1953 相模・江の島のシダ、さがみの 2(5): 1~3.
- 2) ——— 1957 相模・江の島植物誌 1~38.
- 3) ——— 1970a 帰化植物ノート (1), 植研 45(6): 109~114.
- 4) ——— 1970b 日本の帰化植物をめぐって, 科学朝日 30(6): 103~109.
- 5) 久内清孝 1943 帰化植物雑考, 植物分類・地理 13: 190~193.
- 6) ——— 1950 帰化植物, 48, 科学図書出版社, 東京.
- 7) 檜山庫三 1965 武蔵野の植物, 井上書店, 東京.
- 8) 松野重太郎 1933 神奈川県植物目録, 神奈川県博物調査会, 横浜.
- 9) 大谷 茂 1958 シダ植物 (神奈川県植物誌), 8, 23, 神奈川県博物館協会, 横浜.
- 10) Ohwi, J. 1965, Flora of Japan (in English), 27, 46, Smithsonian Institution, Washington.
- 11) 内田輝彦 1961 江の島植物園とサムエル・コッキング, 1~74.